

中学校 英語 部会

部会長名 福智町立金田義務教育学校 校長 井上 修一

実践者名 大任町立大任中学校 教諭 谷川 明歩

1 研究主題

根拠に基づき自分の考えを表現する力を養う外国語（英語）科指導法の研究
～学びを自ら調整しながらつなぐスタディログの活用を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的背景から

現代のグローバル化社会において、2050年頃には、多文化・多言語の人々と協調・共生する環境が当たり前になると予想される。このような社会背景から、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編（以下、新学習指導要領とする）では外国語科の本質として、単なる知識の習得ではなく、「対話を通じて自分の考えや気持ちを整理し、他者と伝え合う資質・能力の育成」を目指している。令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果からは、「書くこと」や「話すこと」において、自分の考えを理由と共に論理的に構成する力について課題が見られた。その中でも筑豊地区は県平均と比較してもかなり厳しい状況にある。特に表現活動における「無解答率」の高さが顕著であり、これは英語の基礎知識を「使う」段階で生徒が課題意識を感じている現状があると考えられる。

(2) 教科の本質から

外国語科の目標は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」である。

「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動」とは、外国語の音声文字を使って実際にコミュニケーションを図る資質・能力の育成につながる活動であり、「理解する」「表現する」「伝え合う」といふ3つの要素に整理されている。コミュニケーションを図る資質・能力を高めるためには、このような3つの要素を統合的に身に付ける必要がある。研究主題にある「自分の考えを表現する力」を養う本研究は、教科の本質とも合致しており、有意義であると考えられる。

3 主題の意味

(1) 「根拠に基づき自分の考えを表現する力」とは

「自分の考えを表現する」については、学習指導要領において「話題となっている内

容を聞いたり読んだりして理解し、それを基に思考・判断したことについて、自分の考えや気持ちなどを主体的に伝え合う」とある。つまり言語活動を通して、聞いたり読んだりして得た情報から、自分の考えや気持ちを整理する能力が重要であることがわかる。そこで、本研究において「根拠に基づき自分の考えを表現する力」とは、聞いたり読んだりして得た情報を根拠として整理し、その根拠を明確にしなが、自分の考えを相手に伝わる形で話したり書いたりする力とする。

(2) 「学びを自ら調整しながらつなぐスタディログ」とは

副題にある「学びを自ら調整しながらつなぐスタディログ」とは、生徒が言語活動を通して得た気付きや情報、自分の考えを継続的に記録・振り返り、次の表現活動へと生かすための学習ツールである。本研究では、このスタディログを活用することで、生徒が自分の思考過程や根拠を可視化し、学びを自ら調整しながら、根拠に基づいた表現へとつなげていくことを目指す。

4 研究の目標

スタディログを活用した指導を通して、生徒が聞いたり読んだりして得た情報を根拠として整理し、その根拠を明確にしなが、自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育成することを本研究の目標とする。

5 研究仮説

聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えをスタディログに継続的に記録・整理し、振り返りながら次の表現活動へとつなげる学習過程を設定することで、生徒は根拠を明確にしなが自分の考えを話したり書いたりすることができるようになり、根拠に基づき自分の考えを表現する力が高まるであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 目標

○仮定法を含む文の特徴やきまりに関する事項を理解している。(知識及び技能)
○ALT が求めるドラえもののひみつ道具の使い方をプレゼンテーションする場面において、視点に沿った使い方について調べたことや考えたこと、その理由を伝え合い、自分の意見に根拠を添えてまとまりのある文章で表現している。

(思考力・判断力・表現力等)

○ALT が求めるドラえもののひみつ道具の使い方をプレゼンテーションする場面において、視点に沿った使い方について調べたことや考えたこと、その理由を伝え合いなが、自分の意見に根拠を添えて、まとまりのある文章で表現しようとしている。
(学びに向かう態度、人間性等)

(2) 計画

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点(働・場)
一	1	1. ミシェル先生からのお願いを読む。	○本単元の活動目的を明確にするために、ALTからの要望を明確化させる。
		<p>Hi, Oto JHS 3rd grade students. Recently I read Doraemon. It was interesting for me. I want you to think about this topic not only your own opinion but also another point of view. For example, in our daily life or social life. I'll give you three points of view to think about it. Please choose one which you like and give me a presentation. You need to make your presentation with the way to use it and clear reasons why you chose it. See you soon.</p>	
		2. ドラえもののひみつ道具を日常生活と社会貢献という視点からどのように活用できそうか考える。	○根拠に基づいて意見を述べるために、ブレーンストーミングをして自分のトピックを決定させる。
		3. 自分の決めたトピックに沿って、即興でペアにひみつ道具を紹介する。	○ひみつ道具を紹介するために必要な表現を知るために、一度自分のトピックについて口頭で紹介させる。
		4. 実際に話した内容をスタディログに記録し、言いたかったのに言えなかった表現や、より詳しく説明するために必要な表現について考える。	○今後の学習の中で知るべき表現を明確にし、習得すべき知識に見通しを持たせるために、会話の内容をタブレットに記録する。
二	1	1. 前時のスタディログを元に、仮定法のもつ働きについて確認する。 2. 仮定法の活用方法について学習し、実際に自分のトピック内で活用できそうなフレーズを仮定法で表現する。	○本時で学習する文法の働きについて理解を深めるために、スタディログを確認させる。 ○学習した内容を実際に表現活動に活かすために、ひみつ道具の紹介の中でどのように活用できるか見通しをもたせる。
三	3	1. 仮定法を含む教科書の本文を読み取る。	○自身の表現活動に活かすために、教科書の本文を読み仮定法やその他の役立つ表現を理解させる。
四	4	1. 本時まで学習してきた内容を踏まえて、自分のトピックについての紹介文を作成する。	○相手意識をもった表現活動にするために、再度ALTからの要望を想起させ、必要な情報を意識させる。

		2. ALTに自分のおすすめのひみつ道具の紹介を行い、フィードバックをしてもらう。 3. ALTからのフィードバックを元に紹介文に付加修正を行う。	○ALTが納得するような紹介文を作成するために、実際に自分が考えてきたひみつ道具のプレゼンを行わせ、フィードバックを受けて内容を再検討させる。 ○より相手意識をもった紹介文を作るために、ALTからのアドバイスや質問などを踏まえながら紹介文に付加修正をさせる。
五 本 時	1	1. クラスメイトにひみつ道具をプレゼンする。	○自らの紹介文の内容を他者の紹介文と比較し、より深まりのある内容にするために、お互いの紹介文を紹介させる。

7 指導の実際

令和7年12月8日（月） 3年2組教室において

(1) 主眼（ねらい）

自らの紹介文を他者に伝え、他者の紹介文を聞き、考えを深めるグループ交流を通して、視点に沿って自らのひみつ道具の紹介文の加筆・修正をすることができる。

(2) 展開

配時	学習活動・内容	○指導上の留意点◆評価基準(観点)								
5分	1. 本時のめあての確認	○目的意識をもち、活動を行うために、本時のめあてを確認する。								
10分	<p>自分の一番良いと思うひみつ道具をお互いに紹介し合って、友達の見意見を参考にしながら、視点に沿って自分の紹介文の内容をさらに改善しよう。</p> <p>2. 自分の紹介文を改善するための視点と本時の流れの確認をする。</p> <p>(1) ALT からのお願いを確認する。</p> <p>(2) 紹介文を作成するために必要な3つの視点を確認する。</p> <table border="1" data-bbox="300 846 810 1025"> <tr> <td data-bbox="300 846 475 1025"> A ドラえもんの中でどのように使われているかの説明を踏まえて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。 </td> <td data-bbox="475 846 651 1025"> B ひみつ道具の特徴を説明しながら、日常生活に関連づけて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。 </td> <td data-bbox="651 846 810 1025"> C ひみつ道具の特徴を説明しながら、社会貢献に関連づけて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。 </td> </tr> </table> <p>(3) 活動を円滑に行うために、プレゼンの方法、話の聞き方など、活動の流れを全体で確認する。</p> <p>【プレゼンの方法】</p> <table border="1" data-bbox="308 1171 810 1373"> <tr> <td data-bbox="308 1171 563 1373"> A ミシェル先生に自分が作成した紹介シートを見せながら、原稿を読んで説明する。 </td> <td data-bbox="563 1171 810 1373"> B ミシェル先生に自分が作成した紹介シートの画像を見せながら、プレゼン形式で説明する。 </td> </tr> </table> <p>【話の聞き方】</p> <table border="1" data-bbox="308 1440 938 1630"> <tr> <td data-bbox="308 1440 531 1630"> A 相手の話をあいづちを打ちながら聞く。 ・I see. ・Sounds good. ・That's interesting. ・I like your idea. ・Exactly. など </td> <td data-bbox="531 1440 730 1630"> B 相手のアイデアに賛成したり、自分の考えや感想を述べたりする。 ・I agree with you because ~. ・In my opinion ~ など </td> <td data-bbox="730 1440 938 1630"> C Bに加えて、相手のアイデアに対して質問をする。 </td> </tr> </table>	A ドラえもんの中でどのように使われているかの説明を踏まえて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。	B ひみつ道具の特徴を説明しながら、日常生活に関連づけて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。	C ひみつ道具の特徴を説明しながら、社会貢献に関連づけて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。	A ミシェル先生に自分が作成した紹介シートを見せながら、原稿を読んで説明する。	B ミシェル先生に自分が作成した紹介シートの画像を見せながら、プレゼン形式で説明する。	A 相手の話をあいづちを打ちながら聞く。 ・I see. ・Sounds good. ・That's interesting. ・I like your idea. ・Exactly. など	B 相手のアイデアに賛成したり、自分の考えや感想を述べたりする。 ・I agree with you because ~. ・In my opinion ~ など	C Bに加えて、相手のアイデアに対して質問をする。	<p>○本時の自分の目標を明確にするために、ALT から提示された3つの視点を確認するように促す。</p> <p>○相手に対する意識を高めた交流活動にするために、2通りのプレゼンの方法と、3通りの話の聞き方を提示し、自分で選択するように促す。</p>
A ドラえもんの中でどのように使われているかの説明を踏まえて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。	B ひみつ道具の特徴を説明しながら、日常生活に関連づけて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。	C ひみつ道具の特徴を説明しながら、社会貢献に関連づけて、そのアイテムの良い点をプレゼンする。								
A ミシェル先生に自分が作成した紹介シートを見せながら、原稿を読んで説明する。	B ミシェル先生に自分が作成した紹介シートの画像を見せながら、プレゼン形式で説明する。									
A 相手の話をあいづちを打ちながら聞く。 ・I see. ・Sounds good. ・That's interesting. ・I like your idea. ・Exactly. など	B 相手のアイデアに賛成したり、自分の考えや感想を述べたりする。 ・I agree with you because ~. ・In my opinion ~ など	C Bに加えて、相手のアイデアに対して質問をする。								
20分	<p>3. グループごとに交流する(8分ずつ)</p> <p>(1) プレゼンの方法は2通りの中から選択し行う。</p> <p>(2) 原稿を聞き手と一緒に見ながら読んで内容を確認する。</p> <p>(3) プレゼン形式でひみつ道具の絵を見せながら紹介する。</p> <p>(4) 聞き手は相手の話を聞きながら適切にリアクションをとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I see. ・ I like your idea. ・ You're right. 	○交流活動の目的を明確にするために、紹介をした後に、なぜその視点を選んだかという理由を具体的に説明するように指示をする。								

5分	<p>(5) プレゼン後はその視点を選んだ理由について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラえもののひみつ道具は環境問題を解決するのに役立ちそうだったから。 ・ドラえものの道具があったら、私たちの生活がもっと便利になると思ったから。 <p>4. 交流を通して、自分のプレゼン資料に付加修正を赤字で行う。</p> <p>(1) 他の人との交流する中で取り入れてみようと思った表現や交流する中で気が付いた間違いなどの修正を行い、よりまとまりのある紹介文を作成する。</p> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> <p>This is a Time Cloth. If we had Time Cloth, we could return the finished using item to can use again. Used dishes and broken items.</p> </div> <div style="font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> <p>This is a Time Cloth. If we had this, we could return the finished using item to can use again. Such as, used dishes and broken items.</p> </div> </div>	<p>○自分の紹介文の内容にまとまりや深まりをもたせるために、他の生徒の英作文などを参考にしながら赤字で付加修正を行うよう指示をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆視点に沿った自らのひみつ道具の紹介文の付加修正をすることができる。 (思・判・表)</p> </div>
10分	<p>5. 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通してもっと知りたいと思ったこと。 ・次回からの学習で頑張りたいこと。 <p>6. 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介文の工夫している点などを全体で共有する。 	<p>○本時の学習で興味をもったことや、関心が高まったことなどを、次回の目標に繋げるために、本時の振り返りを2つの視点を踏まえて書くように促す。</p> <p>○今後の活動において、英語を用いた表現の幅を広げるために紹介文の工夫されている点を全体で共有し、称賛する。</p>

8 研究のまとめ

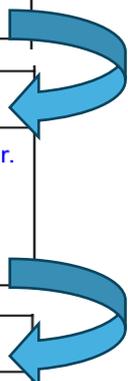
(1) 帯活動について

毎時間授業のはじめに実施した10分程度のスピーキング活動は英語に対して苦手意識を持っている生徒の英語を話すという活動に対するハードルを下げることに有効的であったと考える。また毎時間、こちらからグループのメンバーやトピックを指定することで、様々な生徒の意見や考えに触れ、今後の活動に生かすことが出来そうな表現を知り、スピーキングスキルの向上に繋げることが出来た。そのような活動を日々繰り返すことにより、生徒は次第にスピーキング活動を楽しむようになり、相手の話を聞き、即興的に会話を繋ごうとする力を伸ばすことに意欲を示すようになった。この活動を取り入れるまでは、英語を話す際には一言一句間違えることなく話すことに強いこだわりを示す生徒が多く見受けられたが、英語を発することに抵抗を感じる生徒が少なくなった。

(2) スタディログについて【資料1】

(1) で述べた帯活動の後に、自分の話した内容と、わからなかった表現、言えるようになりたい表現をスピーキング活動の後に記録として取ることで、生徒は自分から発信する内容に対して意識的に記憶しようと心がけるようになった。そして、会話をする際に、どのような表現を知っていればこの会話がもっと充実するかなど、次回以降より良くするために自分が何を知れば良いのかを具体的に意識するようになった。それを記録に残すことにより、知りたいと思うことは調べたり、教師からのフィードバックを参考に次回に活かしたり、会話の内容やスキルを磨き上げる意欲に繋げることができた。それは、生徒の英作文にも顕著に表れており、3回の帯活動において同じトピックでグループのメンバーを変えて会話活動を行わせ、その都度話した内容を踏まえて英作文を書かせる活動では、1回目に比べると3回目の英作文では全ての生徒の英作文が内容に深まりが出ていた。スタディログを取り入れるまでは、与えられたトピックについて、自分の考えを述べるように指示する英作文の問題では何も書けずに提出していた生徒もいたが、スタディログを活用することによって、以前の自分の記録が残るため、生徒は帯活動の前にそれを見返したり、英作文の際に、スタディログにある表現を参考にしたりすることで、スピーキング活動を行った後の英作文では全ての生徒が自分の考えを記述することが出来るようになった。

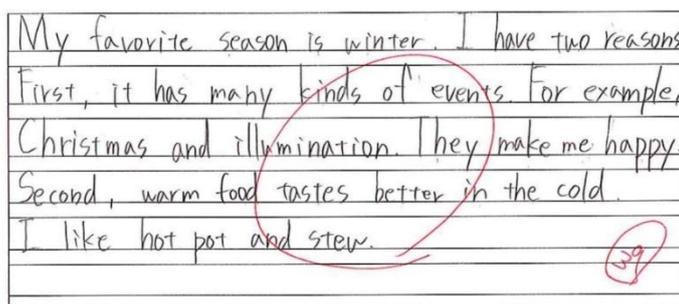
Today's Topic
What month of the year do you like the best?
Your opinion
I like December the best. I have two reasons. First, there is Christmas in December. For example, we can get presents. Second, we can play in the snow. For example, we can make a snowman. So I like December the best.
Your opinion
I like December the best. I have two reasons. First, there is Christmas in December. For example, we can get presents. And, the illuminations are very beautiful. Second, we can play in the snow. For example, we can enjoy snowball fights and building a snowman. There are many attractive things in December. So I like December the best.
Your opinion
I like December the best. I have two reasons. First, there is Christmas in December. For example, we can get presents. And, the illuminations are very beautiful. It makes we happy. Second, we can play in the snow. For example, we can enjoy snowball fights and building a snowman. There are many attractive things in December. So I like December the best.



【資料1 生徒のスタディログ】

(3) 根拠に基づいた表現活動について

年度当初より、英作文を行う際に自分の意見のみを述べるのではなく、事実を述べた上で根拠づけて表現することに意識を向けた英作文指導を継続して行ってきた。例えば、“What seasons do you like the best?”という質問に対して、年度当初は“I like winter the best because I like snow.”という主観的な理由で表現をする生徒が多く見受けられた。事実を踏まえながら相手を説得させる返答を意識させながら、日々のスピーキングや英作文活動を継続した結果、【資料 2】のように、トピックに対しての自身の考えとそれを根拠づける内容で文章を構成することが出来るようになった。相手を説得できるような表現にするために、生徒は大きく二つの事実を出し、その内容をさらに深めていくことを心がけながら文章構成を行っている。客観的な事実も含めることで、内容に深まりも出たように感じる。



【資料 2 書き取りテストでの英作文】

9 成果と今後の課題

- スタディログを活用することによって、生徒の日々の活動につながりが生まれ、生徒の表現力の向上につながった。
- 自分の考えを先に即興的に話させることで、生徒は自分の伝えたいことを整理し、明確にした上で英作文に取り組むため、未記入で提出する生徒がいなくなった。
- スタディログをタブレットで記録させることにより、生徒の書くことへ対する抵抗感が軽減された。
- 表現活動への抵抗感は軽減できたが、新出や既習の言語材料を含む文の正確性の部分で課題は多い。
- やり取りを行うときは、文法的な間違いを恐れず、一方で書いて表現する際には文法的な正確性を意識した表現活動の指導を行うことで、生徒の英語の表現力はより高まっていくと考える。

◎参考文献

- 中学校学習指導要領解説 外国語編 文部科学省
- 令和7年度全国学力・学習状況調査及び福岡県学力・学習状況調査 調査結果報告書 福岡県教育委員会
- 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について【概要】 福岡県教育委員会
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所
- 英語トリオ・ディスカッション指導ガイドブック 上山 晋平